

福岡教区今年度の目標…「信仰の伝達」
小教区今年度のテーマ…「学び、伝えよう、家庭から私たちの信仰を」

穏やかな日々の重要性



主任司祭 遠山満

この三月で、東北の震災から5年が経過します。震災で亡くなられた方々やその後の心労等で亡くなられた方々が、神様のもとでの永遠の安息に深く与られますよう、心よりお祈り申し上げます。また、震災によって家族や友人を失った方々、家を失った方々、原発の問題で今も苦しんでいらっしゃる方々に、相応しい形での継続的な援助がありますよう、お祈りいたします。私達、笹丘小教区共同体も、共同体として、これからも継続的に関わっていくことができたらと思います。

東北の震災が契機となり、見直されたことは、何の変哲もない、毎日の生活の重要性です。穏やかに過ぎていく毎日の価値とも言い換える事ができると思います。その価値を、私達はしばしば見過ごしてしまっているような気がします。

しかし良く考えれば、このことは様々な領域で言える事ではないかと思えます。例えば、子育てにおける躾に関して考えてみた場合、毎日の何の変哲もない生活の中で、子どもとの信頼関係を築いていかなければ、親がいざという時、躾をしようとしても、子どもには通じないのではないかと思います。例えば、子どもの部屋におもちゃが散乱してしましましょう。そんな時、「おもちゃを散らかしたままだと、お母さんが片づけないといけないから、困るんだよね」と、非難がましくなく、言ったとします。普段の生活の中で、母親との信頼関係が築かれている子供は、「大好きなお母さんが困っている。よし片づけよう」と考え、その行動に変化が起こるのではないのでしょうか。

諸宗教を信じる人々との関わりの持ち方について述べてある『対話と宣言』という教会の文書がありますが、その中でも、異なる宗教をもつ人々との普段からの対話によって友情を育むことの重要性が語られています。開かれた姿勢に基づく対話によって築かれていく信頼関係は、私達が大切なメッセージを相手に伝える時の基盤となります。

このことは、私達が次の世代に信仰を伝達する際にも言える事ではないのでしょうか。毎日の生活の中で、家族や私たちを取り巻く人たちと信頼関係を築きながら、それを土台として、私達の大切な信仰を、次の世代に伝えて行くように致しましょう。

カトリック笹丘教会 拡大信者会議事録

開催日時： 2016年3月6日 11:50～12:50

開催場所： 信徒会館

司会：川原

書記：川原

議題

1. 火災時避難訓練の振り返り

予め計画していたため避難はスムーズに完了したが下記について今後検討する。

消火器の設置場所の表示を行う。

消火器の点検が必要 充てん日の確認 使用期限の確認。

避難場所の確認、徹底。

119への通報手順書の作成、掲示。

聖堂の排煙装置の作動状況の確認と作動はいつ開始するのが適当か確認する。

陣頭指揮者はだれが適当かの確認と指揮要領の作成。

外国の方への対応の検討。

身体の不自由な方への対応を考える。

2. 2015年度 年間テーマ「学び、伝えよう、家庭から私たちの信仰を」の振り返り

(1) 教会ニュースに「信仰のルーツ」コーナー を設け投稿を掲載した。

3. 2016年度の年間テーマ

教区のテーマが「いつくしみ深く、御父のように」と決まっており、小教区のテーマも教区目標に沿ったものを検討することとし、意見箱を設置して皆さんからも募集する。

4. 来年度役員について

退任予定であった前田美由紀さんが留任してくださることになった。他の役員も留任予定。

5. 2016年度行事について

総会(4/10)、バザー(5/8)、初聖体(4/24)、アウグスチノ祭兼献堂五周年(8/28)、
堅信式(9/4)、敬老会(9/18)、クリスマスバザー(12/4)、成人式(1/8)、新年会(1/15)、
チャリティーコンサート(3/5)

6. その他

連絡網の整備を行い、メール、ファックス等の利用で連絡が比較的スムーズにいくようになったが、まだ登録をされていない方もいるので、再度呼びかけをする。

2月20日(土) ヨハネ松尾太神学生の荘厳誓願式(終生誓願)ミサが聖アウグスチノ修道会日本分管区長 柴田弘之神父様の主司式で執り行われました。

誓願宣立者の呼び出し



荘厳誓願宣立者の意思の確認



諸聖人の連願



荘厳誓願宣立



莊嚴誓願宣立者の祝福



莊嚴誓願の受理



兄弟たちとの挨拶



兄弟たちとの挨拶



信仰のルーツ

1948年、私は長崎本線の汽車の中で、小さなパンフレットを頂きました。それは『聖母の騎士』と書かれた冊子でした。その本を読んだのか、忘れてしまっています。後に知ったことですが、そのパンフレットを渡して下さった方は、ゼノ修道士でした。

その後私は、県立高校の図書係として勤めました。その学校の文化祭で「マッチ売りの少女」という劇が演じられました。パリの街角でマッチを売っていた少女が、最後にすったマッチの炎の中でマリア様が現れるという劇でした。その頃街では、「長崎の鐘」の歌があちらこちらで流れていました。私の頭の中に「マリア」と「ロザリオ」のことが残りました。また倉田百三の「千手観音の画像を見て」という文章を読んだのもその頃でした。私は多くの宗教なるものの存在を知りました。

その当時、私は図書係として担当の先生と一緒に本を買い出しに出掛けていました。その時、昼食のお弁当をいただいたのは、カトリック佐賀教会の聖堂でした。(案内された担当の先生はずっと後に知ったのですが、カトリックの洗礼を受けたばかりであったのです。)聖堂には十字架の像と道行の絵がありました。私はそれを眺めても何も感じることができませんでした。

その2年後福岡市に出て会社に勤めていました。ある日、会社から帰ると一枚のハガキが届いていました。「あなたがカトリックに興味を持っていると伺ったので尋ねて来ました。」と言う文面でした。私はそのハガキを持って差出人のお宅に伺ったのでした。その方は雙葉学園の先生でした。「よかったら大名教会に来ませんか」とお誘いを受けました。早速私は出掛け、そこで伊東神父様を紹介されました。神父様は「公教要理を勉強しませんか」と言われました。私は何が何だかわからないまま勉強を始めました。公教要理も祈りの本も聖書もあまりわからぬままに教えを受けていました。ある時、シスターが教会の花壇の所で子どもたちに「こんな美しい花を神様が咲かせて下さったのです。」と話してらっしゃいました。これが、聖書の天地創造の意味を理解するきっかけとなりました。

その後浄水通教会で深堀敏神父様(後に司教様になられた)の叙階式に参加しました。諸聖人の連祷の後、深堀仙右衛門司教様が永遠の生命に預かる意味を説かれました。その時初めて洗礼のお恵みをいただく決心ができました。

受洗は6月12日でした。次の年の8月15日に堅信のお恵みをいただき、その翌年、堅信の時一緒であった夫と結婚しました。

その翌年幼い子を亡くし悲しみに沈んでいる時「あなたのお子さんのサレジオのフランシスコ聡ちゃんは、守護の天使として天国から見守っているのですよ」と言うお言葉を神父様からいただきました。信仰のお恵みを強く感じたのはこの時でした。今、レジオの会員としてレジオの祈りの中に信仰の証を見出したと思います。

振りかえれば「聖母の騎士」との出会いから、現在のレジオの活動に至るまで、マリア様が信仰の道しるべを示して下さいましたように思います。



編集後記

先日テレビで、スケーターの羽生結弦君が東日本大震災の被災者の一人として当時の避難場所で自らの体験談を話していた。「おにぎりの配給があった。それは、アルファ化米を水に戻して作られたものだった。十分に米がふやけてなくて硬かったけど、おいしかった。最初の頃は、2個ずつあったけど、そのうちに1個ずつになった。次にいつ食べ物が手に入るかわからなくなり、僕はこの1個のおにぎりを一粒一粒時間をかけて食べた。入れ物にくっついていたものもきれいに食べた。一日1個。それで、お腹いっぱいだった」と当時の行動を実演しながら力強く自然体で語っていた。その語りは神秘的で、感動した。聖書にある、5つのパンと2匹の魚で5千人ほどの腹が満たされた、の箇所を連想した。また、教会行事の松尾神学生の荘厳誓願式も泣きそうになる気持ちを堪えるのが精一杯なほど感動した。このふたつは次元が違うことなので一緒にしてはよくないのだろうが、神の存在を強く感じる出来事だった。(J.N)

